

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズボンド守口教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 12日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026年 1月 12日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	① 多角的アセスメントと個別化支援 Vineland-IIをベースにコミュニケーション、日常生活スキル、社会性、運動スキルの各観点を統合した多角的アセスメントに基づき、子ども一人ひとりの特性に即した個別化支援を計画・実施している。評価結果は保護者へわかりやすく共有し、家庭での実践と連動させている。	・初回アセスメントは利用開始から2か月以内に実施し、標準化ツールと行動観察、保護者面談を組み合わせるベースラインを把握している。 ・日々の支援記録は当日中に入力、定期的に分析を行い、支援の質を継続的に高めている。	・周知が不十分で、どの検査を何の目的でいつ受けられ、結果がどう返るのが伝わっていない。 ・検査の目的・対象・所要時間・返却方法を1枚にまとめた検査ガイドを作成し面談・教室通信等で定期的に案内を行う。 ・申込は教室管理者に一元化し、予約枠の公開と優先基準を
2	② 研修と専門性の底上げ スーパーバイザー、社内の専門職チーム(運動・言語・心理)、コーディネーターチームと連携し、日常の支援へ専門的視点を適切に反映。定例研修では障がい特性に加え、法令やメンタルヘルスも継続的に学ぶ環境を整えている。	・スーパーバイザー、専門職、コーディネーターチーム同席のケース検討を実施し、方針を次回支援計画へ反映。 ・実地研修とオンライン研修を組み合わせ、月2回以上の研修機会を確保。受講履歴と振り返りを記録化。 ・発達障害外来で使う検査の大半を自社実施できる体制を確立。	・年間研修計画を「障害の基礎知識/法令/メンタルヘルスケア/管理者研修」の4領域で編成し、研修と現場での活用を定着させる。 ・困った時の専門家への相談ラインを確保。早期にヒアリング、ケース検討の仕組みを確立している。
3	環境を活かした活動設計 広い訓練指導室を活かし、サーキット等の粗大運動や集団活動を取り入れることで、楽しさと達成感を両立したプログラムを提供している。	・個別活動+集団活動を子どもの状況に応じて適宜組み合わせ、広い訓練指導室を活かした粗大運動・集団活動を計画運用。 ・ガイドラインの基本活動を複数組合せ、子どもの自己選択・自己決定の機会を意図的に設定。	・活動の様子をHP/通信で公表・周知している。 ・社会資源活用の機会を年次計画に組み込み、長期休暇も含めた多様な活動を展開している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スペースの広さ・環境構成への不安 活動内容によっては、十分な空間確保ができていないか分りにくいとの印象を与えている。	・未就学児は発達段階に個人差が大きく、活動量にも幅があること ・空間の使い分けや小集団活動の意図が、保護者へ十分に伝わっていないこと ・安全対策や環境構成の工夫が“実施している前提”となっており、可視化が不足していること 環境設定は行っているものの、その具体的な配慮や意図が十分共有されていないことが要因と考えられる。	・発達段階に応じた小グループ活動の明確化と時間帯の調整 ・室内レイアウトや環境設定の工夫を写真や掲示物で共有 ・ヒヤリハット事例の記録と職員間での定期的な振り返り
2	保護者との面談機会が少なく、支援の意図や成長の共有が十分とは言えない面がある	・管理者を含め、保護者との対話の機会づくりが組織的に仕組み化されていなかったこと ・保護者が気軽に教室の様子を見学できる環境整備が不十分であったこと その結果、支援の専門性や取り組み内容が十分に共有されず、「見えにくい支援」となっている可能性がある。	・定期面談の実施し、年間計画として明確化する ・短時間でも気軽に相談できる「ミニ面談日」や相談週間の設定 ・保護者参観日やオープンデーの実施 ・教室見学を事前予約制で随時受け入れる体制づくり ・管理者を含めた職員の保護者対応スキル向上のための職員会議を強化 保護者との対話機会を増やすことで、支援の意図や専門性を共有し、信頼関係のさらなる向上を目指す。
3	地域との交流機会が十分とは言えず、地域社会とのつながりを広げる機会が少ない。	・安全面や配慮事項を優先する中で、事業所内活動が中心となっていること ・外部との交流に関する計画や年間スケジュールが明確化されていなかったこと その結果、地域との関わりの機会が少なくなっていると考えられる。	・近隣公園や公共施設を活用した地域活動の計画的実施 ・地域の子育て支援センターや関連機関との情報交換・連携強化 ・季節行事や地域イベントへの参加機会の検討 ・安全対策を講じたうえで外出活動の充実 地域の中で育つ機会を大切にし、社会性や経験の幅を広げる支援体制を整えていく。